

3) 景観に対する市民意識

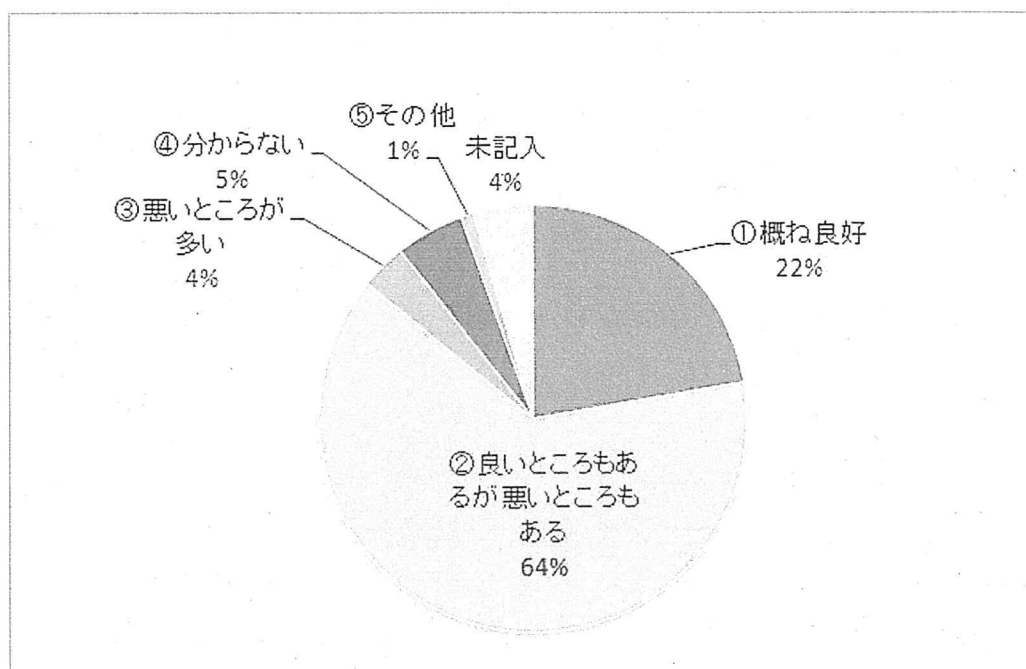
(1) アンケートに見る市民意識

景観市民アンケートは、平成 23 年 11 月に、市内に住民票を有した 18 歳以上の男女から無作為に抽出した、1,000 名を対象に郵送で実施し、402 名およそ 40% の方から回答をいただきました。

①甲州市の景観の評価

<景観の評価：景観を改善する必要がある>

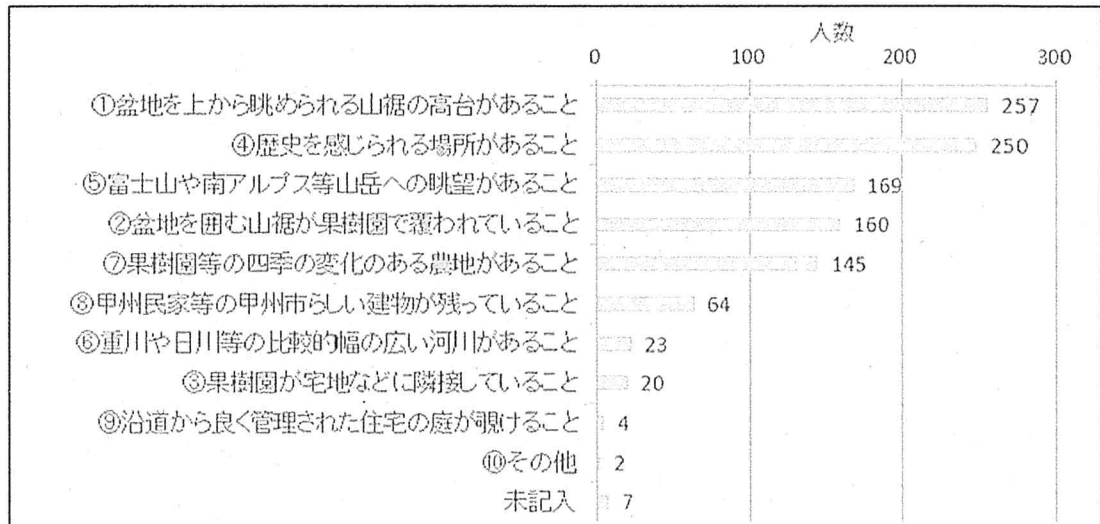
「甲州市の景観をどのように評価しますか？」という質問に対して、「良いところもあるが悪いところもある」が 60%以上を占めました。「悪いところが多い」と回答した人は 4%と少ないですが、「悪いところもある」と回答した人が 60%以上を占めており、多くの人々が改善すべき景観があると感じているといえます。



②甲州市の景観の良いところ悪いところ・近年の変化

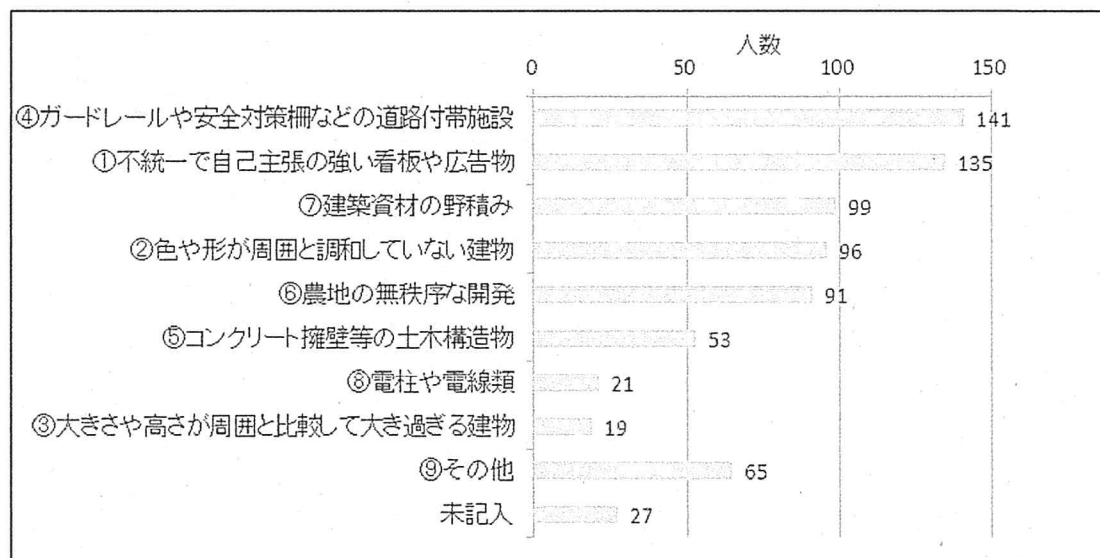
<甲州市の景観の良いところ：盆地を眺められる高台があること、歴史を感じられる場所があること、富士山や南アルプス等山岳への眺望があること>

・「甲州市の景観の良いところは何だと思いますか」という質問に対して、「盆地を上から眺められる山裾の高台があること」が一番多く、次いで「歴史を感じられる場所があること」、「富士山や南アルプス等山岳への眺望があること」、「盆地を囲む山裾が果樹園で覆われていること」、「果樹園等の四季の変化のある農地があること」といった回答が多くあげられました。甲府盆地を見下ろす景観や、山裾一面に広がる果樹園が、景観の良いところとしてあげられました。



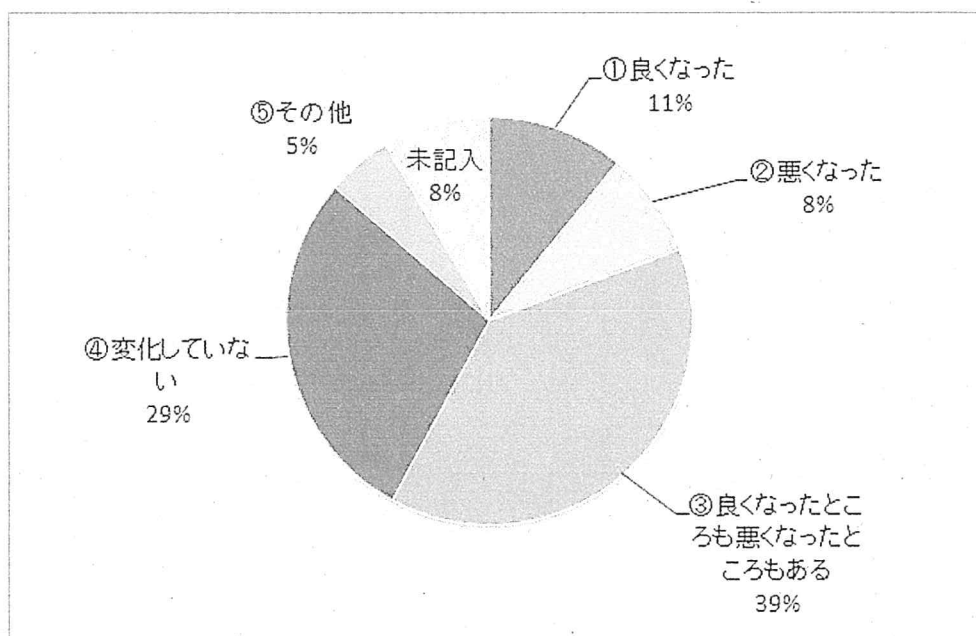
<甲州市の景観の悪いところ：ガードレールなどの道路付帯物、看板や広告物等>

- ・甲州市の景観の悪いところは何だと思えますかという質問に対して、「ガードレールや安全対策の柵などの道路付帯施設」が最も多く、次いで「不統一で自己主張の強い看板や広告物」が多くあげられ、「建築資材の野積み」「色や形が周囲と調和していない建物」、「農地の無秩序な開発」などが続きます。
- ・「その他」と回答した人が65人と多くあげられました。その他の具体的な記載の内容としては、道路に関するものと、農地に関する意見が多く見られました。道路については「無駄」というものと「整備が充分でない」という両方の意見がありました。道路整備が不十分とする意見には、歩行者環境の整備に関するものがありました。農地については耕作放棄地が増えていること、手入れの悪い農地（枝が道路に飛びだしている、傘紙が放置されている等）に関する意見が多く見られました。



<近年の変化について：良くなった点は駅前整備や道路整備等、悪くなった点は農地の耕作放棄地の増加や笠紙の散乱等 また開発の振興を危惧する声もある>

- ・近年、甲州市の景観は変化したと思いますかという質問に対して、「良くなった所もあれば、悪くなったところもある」と回答した人が最も多く 39% で、続いて「変化していない」と回答した人が 29% となりました。
- ・良くなった景観がある一方で、悪くなった景観もあると感じている人が多く、改善したほうが良いと感じる景観も多いことが分かります。
- ・良くなった点としては、「道路整備」、「駅前整備」、「市役所の整備」、「店の増加」などが挙げられました。悪くなった点は「耕作放棄地の増加」、「畑の減少」、「農地の宅地化」、「開発の進行」などが挙げられました。



③甲州市らしい景観・大切にしたい景観

<甲州市らしい景観：盆地への俯瞰景が代表的な景観>

- ・「あなたがもっとも甲州市らしいと思う景観は、〔どこからみた・どこにある〕、〔何の景観か〕」を記載する質問に関しては、〔どこからみた・どこにある〕の中で最も多かったのは「ぶどうの丘からの景観」で、次いで「フルーツラインからの景観」となりました。いずれも盆地を見下ろす俯瞰景観であり、以下、松里地区の景観や勝沼ぶどう郷駅からの景観と続いています。
- ・〔何の景観か〕に対しては盆地やぶどう畑、また夜景といった記載が多く、高台からみる景観に対して特に認識が強くなっています。
- ・中央本線からの景観に関する記載も多く、甲府盆地の入口として、山間から急に広がりのある盆地に入り、故郷に帰ってきたという印象をもたらす点があげられています。
- ・また、松里の社寺などの歴史環境、ころ柿をつるす晩秋の景観、神金地区や大藤地区の桃畑、甲州民家の集落なども本市らしい景観として多くの人があげています。

<甲州市らしい景観>

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ① ぶどうの丘からの景観(77件) | ⑪ 果樹園からの景観(15件) |
| ② フルーツラインからの景観(71件) | ⑫ 大菩薩嶺からの景観(15件) |
| ③ 松里地区で見る景観(47件) | ⑬ 高台からの景観(13件) |
| ④ ぶどう郷駅からみる景観(46件) | ⑭ 塩の山からの景観(11件) |
| ⑤ 大藤地区でみられる景観(34件) | ⑮ 塩山ふれあいの森総合公園からの景観(10件) |
| ⑥ 神金地区からの景観(23件) | ⑯ 自宅からの景観(9件) |
| ⑦ どこでも見られる景観(22件) | ⑰ 竹森からの景観(9件) |
| ⑧ 寺社からの景観(21件) | ⑱ 牛奥・花園からの景観(8件) |
| ⑨ 勝沼地区からの景観(21件) | ⑲ 塩山からの景観(8件) |
| ⑩ 中央本線からの景観(16件) | ⑳ 塩山千野・赤尾からの景観(7件) |

<大切にしたい・残したい景観：果樹園・歴史文化・自然>

・「甲州市で、あなたが大切にしたい、残したいと思う場所はどこですか」という〔どこにある〕〔どんな場所〕かの質問に対しては、盆地の景観をあげる人は少なく、恵林寺、向嶽寺、大善寺などの社寺、ぶどうの丘や塩の山などの丘、ぶどう畑、桃畑、ころ柿、ザゼンソウ、鳥居平、ワイナリーといった具体的な場所や歴史的建築、作物や植物があげられました。いずれも、本市に暮らす人々が残したい大切な景観として認識していると思われまます。

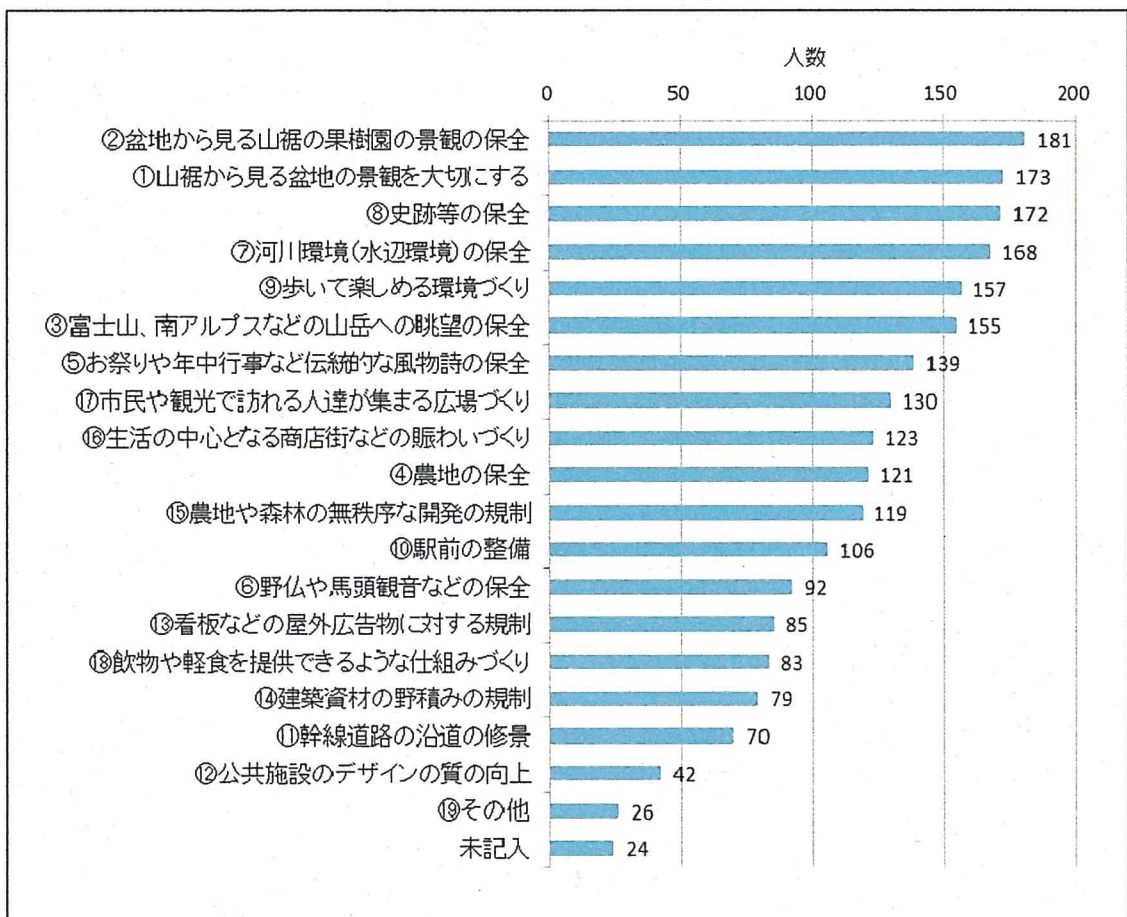
<大切にしたい・残したい景観>

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 市内各地の果樹園・歴史文化・自然(53件) | ⑪ 神金の甲州民家(6件) |
| ② 恵林寺(20件) | ⑫ 勝沼ぶどう郷駅(6件) |
| ③ ぶどうの丘(14件) | ⑬ 甘草屋敷(6件) |
| ④ 慈雲寺(10件) | ⑭ 向嶽寺(6件) |
| ⑤ 塩の山(9件) | ⑮ 旧街道(6件) |
| ⑥ 勝沼のぶどう畑(8件) | ⑯ フルーツライン(6件) |
| ⑦ 塩山平地部のぶどう畑・桃畑(8件) | ⑰ 大善寺(5件) |
| ⑧ 松里のころ柿の風景(8件) | ⑱ 大藤の桃畑(5件) |
| ⑨ ワイナリー(7件) | ⑲ 竹森のザゼンソウ(4件) |
| ⑩ 鳥居平(6件) | ⑳ 塩山温泉(4件) |

④甲州市の景観づくりに大切なこと

<景観づくりに大切なこと：盆地から見る山裾の果樹園の景観の保全>

- ・今後、本市で景観づくりを進める際に重要と感じるのはどんなことですかという複数回答で選択する質問に対しては、「盆地から見る山裾の果樹園の景観の保全」、「山裾から見る盆地の景観を大切にする」、「史跡等の景観」、「河川環境（水辺環境）の保全」、「歩いて楽しめる環境づくり」、「富士山、南アルプスなどの山岳への眺望の保全」などが上位を占めています。
- ・本市らしい景観は「高台から盆地を見おろす俯瞰景観」が多くあげられましたが、大切なこととしては「盆地から見る山裾の果樹園の景観」があげられました。これは山裾の果樹園の耕作放棄が進んでいることに対する危機感の表れではないかと思われます。



(2) ワークショップによる市民意識の把握

《ふるさと景観フットパスプロジェクト》

①ワークショップの実施

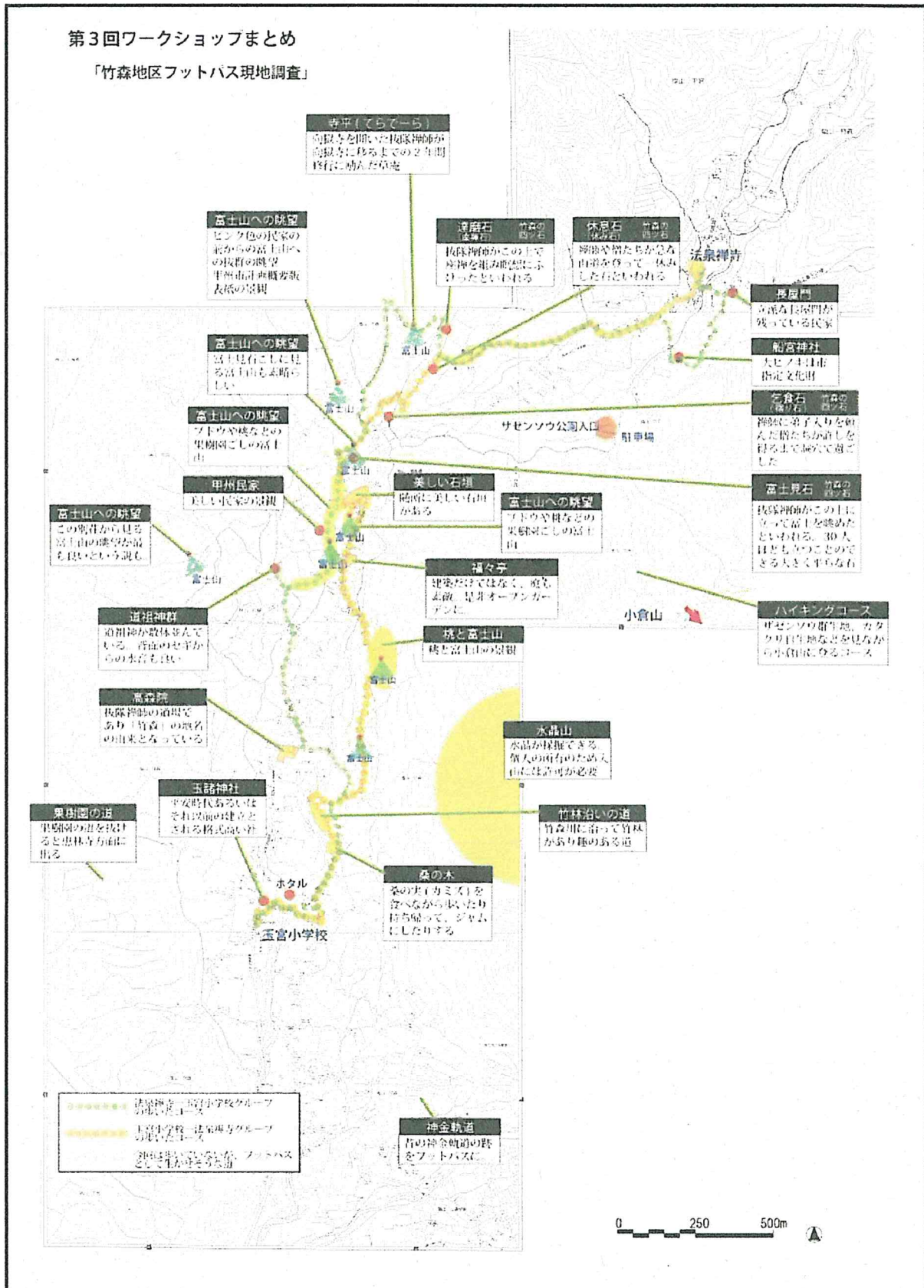
- ・景観計画策定のワークショップとして、フットパスの手法を取り入れた「ふるさと景観フットパスプロジェクト」を設置し、公募により応募された参加者約40名により、景観形成策を検討しました。
- ・フットパスとは、“森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からあるありのままの景観を楽しみながら歩くこと【Foot】が出来る小径（こみち）【Path】”のことで、本市では「遊歩道」と言い換えることが出来ます。発祥地とされるイギリスでは、フットパスが国土を網の目のように縫い、国民は歩くことを楽しんでいます。現在では、遊歩道を整備するというよりは、ルート設定をすることが、イギリスでの主な取り組みとなっています。
- ・現在市内には、いくつかのフットパス・ウォーキングルートが設定されています。
- ・フットパスのルート設定を検討する活動によって、普段見過ごしがちな小路、堰、古くからある樹木や社寺などの地域資源を再度確認することができます。ワークショップでは、大切にしたい地域の景観マップなどを作成しながらルートを検討することにより、参加者が身近な景観の大切さや普段の生活空間も重要な景観形成の要素であることに気づき、市民の誇りとなるような景観まちづくりにつなげることを目的としました。

●実施スケジュール（平成22年度）

実施日	内容
第1回 8月22日（日）	①事業の目標と取組みについて ②甲州市の景観について ③恵林寺周辺の資源調査
第2回 9月26日（日）	①資源発掘ワークショップ ・宿題で持ちよった景観発掘シートを発表して景観資源を甲州市の地図に落とす
第3回 10月23日（土）	①竹森地区の資源調査 ②現地調査のまとめ ③景観とまちづくり(1) 屋代雅充(東海大学教授)
第4回 11月27日（土）	①大和地区の資源調査 ②現地調査のまとめ ③景観とまちづくり(2) 屋代雅充(東海大学教授)
第5回 12月17日（金）	①フットパスづくりワークショップ ・これまで歩いたコースをもとに、具体的なフットパスづくりに取り組む ②空間の歓迎表現とホスピタリティ(もてなし) 屋代雅充(東海大学教授)
第6回 1月23日（日）	①神金上条集落の資源調査 ②現地調査まとめ ③景観評価とアフォーダンス(行動可能性)・景観と色彩 屋代雅充(東海大学教授)
第7回 2月20日（日）	・景観シンポジウム「甲州市の個性ある景観を守り育てよう」 ①フットパスを活用した景観まちづくり…講師:屋代雅充(東海大学教授) ②パネルディスカッション…「みんなで考えよう、甲州市の景観まちづくり」

- ・各ワークショップでは、実際に現地を歩き、参加者の自由な意見から、地域イメージや、大切にすべきものなどを抽出しました。

■第3回ワークショップのまとめ (竹森地区)



②ワークショップによる景観資源の再確認

＜歩く視点での景観の保全（ヒューマンスケール※の景観）＞

・南アルプスへの眺望など大自然の景観や盆地への眺望といった大きな景観とは異なり、歩く視点で感じられる景観は変化に富み、その土地の暮らしぶりが伝わるものです。

・本市は、ぶどう畑や桃畑などの果樹園に地域全体が覆われています。これをベースにして農

業用水等も現役で活かされており、生きた暮らしの景観が豊かに残されています。

・このようなヒューマンスケールの景観を活用したフットパスづくりが、市民活動として活発に行われています。このような取り組みが景観を守り育てる仕組みづくりにつながることを望まれています。

（※ヒューマンスケール：人間の感覚や動きに適合した適切な規模や物の大きさのこと）



＜音や香りなど五感で感じる暮らしの中の景観を大切に＞

・水路（堰）に流れる水の音や、水車の音、果樹の花や果実が放つ香り、肥料のにおいなど農業を営む上で発生する様々な香り等も重要な景観の要素と言えます。

・音や匂いは、不快に感じられることもあります。暮らしに役立つものである事、農業などを営む上で不可欠の事であるという理解を得られれば、それが地域の特徴として認識されるようになります。

・景観への理解を深めるためには地域を知ることが重要であり、市民へ適切に情報提供することで、良好な景観づくりを進めます。



<四季の変化・風物詩などを大切に>

- ・本市には果樹園の四季、社寺の桜や紅葉、南アルプスや富士山の冠雪、ころ柿を軒先に吊す景観、カタクリやザゼンソウの開花、道祖神や石仏の新年の飾り付けなど春夏秋冬の変化があり、季節ごとに異なる良さがあります。



- ・一つの季節だけではなく、さまざまな季節に応じた歩く楽しみを発掘することが望まれます。

<歴史にまつわる理解を深めることを大切に>

- ・大和町の武田勝頼にまつわる史跡など、現在、目に見えるものだけではなく、そこで起きた史実を知り、あるいは伝統的な風習の意味を知ることによって景観の見方は変わってきます。



- ・歴史的に意味があり、現在の暮らしの中で大切にすべきものや場所であることが理解できれば、市民の意識が変化します。

そして、それに伴い現在に引き継がれた歴史資源や史跡等の扱い方も変わってきます。暮らしの中の景観同様に、学校教育での取り組みなども含め、情報の提供方法を検討することも重要です。

<集落と果樹園によって構成される景観を大切に>

- ・果樹園の中に集落が点在する景観は本市の核となる景観であり、この「建築物・工作物」と「農地」は、コントロールができる要素です。



- ・フットパスの取り組みの中でも果樹園の中を歩く体験はまさに地域ならではのものです。

- ・「建築物・工作物」は、これまで自由にデザインされてきましたが、昔は一定の統一感がありました。しかし、高度成長の中で材料・色・形の自由度が高まるにつれて、統一感のない景観になりつつあります。地域の共通認識に基づいた質の高い景観を

つくるために、何らかのルールが必要になってきています。

- ・「農地」は高齢化など担い手不足によって、耕作放棄地や、ミニ開発による宅地化などの問題が発生しています。
- ・農地を保全し、農地と調和した集落とすることが景観づくりの大きな課題となっています。

<屋外広告物についてルールづくりを>

- ・地域には観光農園やワイナリーなどの商業施設が軒を連ねている場所があり、中には派手な色彩の看板や、色とりどりののぼり旗を掲げていたりする場合があります。
- ・この「屋外広告物類」もコントロールが可能なものであり、関係者の合意を得ながら、共通のルールで看板を作成したり、共同で案内板を設けたり、看板だけでなく共同のパンフレットを作成したりすることで、景観の質を高めながら誘客を増加させる取り組みにつなげていくことが求められます。



<景観を伝え、共有するための仕組みづくりが必要>

- ・景観づくりを進めるためには、多くの人が目指すべき景観について共通認識を持つことが大切です。フットパスの取り組みは、まさに地域の良い景観、課題のある景観についてみんなまで共有する取り組みと言えます。
- ・フットパス・ウォーキングにおいて、市民がまちの案内人となり地域の文化や歴史を説明することで、参加者は甲州らしい景観や資源について知ることができます。こうした取り組みを定期的に行い、多くの人に伝えていくことが望まれます。
- ・また、パンフレットや誘導、案内、解説サインなどを整備して、より多くの人々が地域を歩き、地域の良さを再認識するような取り組みが普及することが望まれます。

